

いのちをまもるプロとして

地域医療や看護の重要性が高まるいま、いのちをまもるプロとして、看護への理解や想いを多くの人に伝えていくために「看護の日」を制定されたことを受けて様々な年代の人に向けて看護職を知ってほしいという目的で看護新聞を制作しました。

2023年4月発行

看護部

わたしの想い

「その人らしく安心して暮らせるように」



私が医療連携相談室に異動してから1年が過ぎました。顔に似合わず人一倍緊張し、不安感も強い私は、手と額に汗をうかばせ奮闘する毎日です。医療連携室の業務は、日々戸惑いと発見の連続ですが、やりがいのある部署でもあります。日々気を付けていることは、患者さんと家族の意向を十分に受け止め、各個人の生活の質を維持できるよう意識して、退院調整を進めることです。そのためには、院内スタッフはもちろん、ケアマネや訪問看護師など地域での生活を支える方々と情報共有を密に行う必要があります。疾患や障害を抱えながらその人らしく、安心して暮らせるよう支援し、またそのような方々を支える地域社会の一員でありたいと思います。最近あるところで耳にした「昨日の自分を超越する少しの努力を日々繰り返すことなら誰にでも継続できる」というイチローの言葉に感銘を受けました。スポーツに限らず、仕事でも学習でも通ずることと思います。患者さんとその家族の支援を考え、昨日の自分を一日一日超えていき、自他共に認める医療連携相談室のプロフェッショナルを目指していきます。

医療連携相談室 A. M



私の大切にしていること

市立釧路総合病院は、地域完結型の急性期医療を担う役割があります。私はこの医療を支える一員として医療連携相談室で退院調整の業務に従事して6年目になります。治療後の患者様が安心して地域で暮らせるように生活の場を考え、介護サービスの調整を行います。その際、「相手の立場に立って考える」「話を聞く」「療養する日々の暮らしを共に考える」3つのことを大切にしています。そのために看護師、リハビリ担当者、医師と患者様が安心して暮らすための最善の方法を毎日相談します。そして、地域事情を踏まえて地域のケアマネージャーをはじめ多職種の方々と連携して支援を行います。他職種の方々と連携することは難しいことも多いですが、患者様、ご家族様と一緒に悩み考えながら支援し喜んでいただける瞬間は本当にうれしく、「これが看護の魅力だ」と感じます。地域医療を支えることは、患者様、ご家族様の命を支えることである、と私は考えます。今後も患者様、ご家族様の思いに寄り添い支援していきたいと思っています。

医療連携相談室 M. K

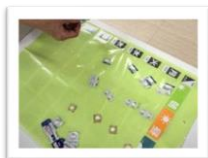


訪問看護の面白さ

ケアが良ければ病状悪化を予防できる!!

当院の訪問看護では看護師が患者さんの自宅を訪問し、健康状態の観察、病状悪化の予防、痛みの軽減や服薬管理、点滴や注射などの医療処置を行います。訪問時間はその日の状況によって異なり30分から90分程度ですが、限られた時間の中で、できる限りのことを行うことにやりがいを感じています。患者さんだけでなく、患者さんに関わる多くの人々に対し、「こうしたい」という気持ちに寄り添い、その人らしく在宅での生活が送れるよう支えています。訪問看護師は、結論に辿り着くまでの道筋でバイタルサインは正常か、異常であればその原因は何か、訪問時間外の状態も含めて分析し小さな判断を連続して行います。そのため、自ら情報を取り自ら考え行動できる能力、いつもと違うことに気が付く力、コミュニケーション能力がより良いケアに繋がっていきます。ケアが良ければ病状悪化や再入院を予防し療養生活が継続できるという世界観をダイレクトに味わうプロセスが訪問看護の面白さだと思います。

訪問看護室 K. Y



こんにちはー

